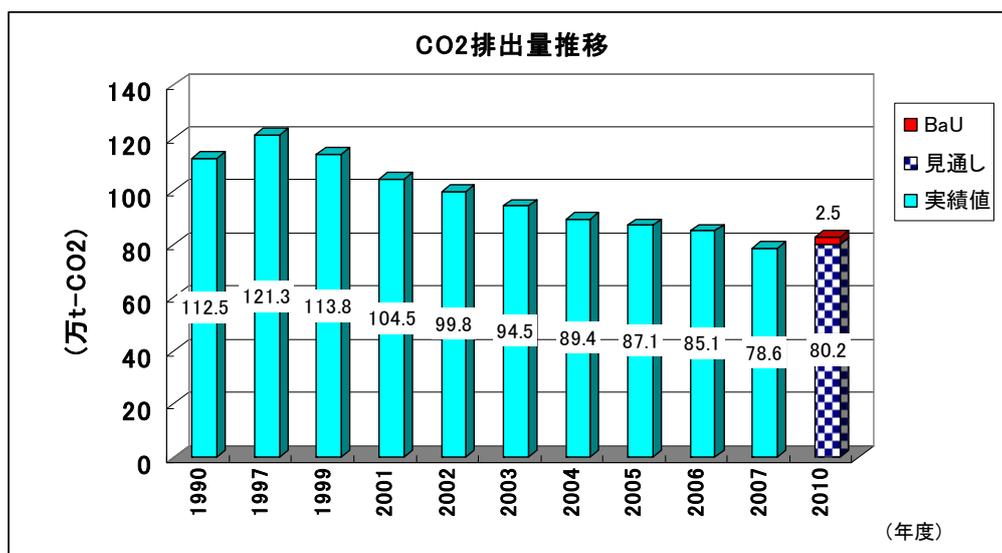


【概要】 ビール業界におけるCO2排出量削減の取組みについて

ビール酒造組合

1. ビール業界は、日本経団連環境自主行動計画へ 1996 年の開始と同時に参画し、ビール各社は環境関連への設備投資を前倒しで実施するなど、温暖化対策に向けた省エネルギーおよび CO2 排出量削減の施策・活動に積極的に取り組んできた。
2. 1990 年度 112.5 万 t であったビール業界の CO2 総排出量実績は、1997 年度の 121.3 万 t をピークにその後連続して減少し、2006 年度は 85.1 万 t、2007 年度では 78.6 万 t となった。



ビール業界 CO2 排出量推移 1990-2007 年

3. ビール業界の CO2 排出量削減活動は、2007 年度までの目標であった「2010 年度のビール工場における発泡性酒類（ビール類）生産時の CO2 排出量を 1990 年度比で 6%削減（この目標は 2008 年度から 2012 年度の 5 年間の平均値として達成するものとする）」を 2008 年に上方修正し、「2008～2012 年度の平均 CO2 排出量を 1990 年度比 10%削減」の新目標を設定した。

新目標(2008 年以降): 2008～2012 年度のビール工場における発泡性酒類(ビール類)生産時の平均CO2排出量を 1990 年度比で 10%削減する。

4. 新目標値の設定にあたり、鋭意懸命な CO2 削減方策展開によって、将来 5 年間の平均としてビール 5 社全てが達成することの可能な最大の削減率を根拠とした。
5. ビール業界は、CO2 削減・省エネルギーへの設備投資を、可能な限り前倒しで積極的に実施し、過去 17 年間に CO2 排出量原単位指数を大幅に改善した。一方で、最近の商品の多品種化傾向によって CO2 排出量原単位指数の更なる向上は年々難しくなっている状況にある。
6. 将来 5 年間に向け、ビールの需要喚起施策の効果により、販売数量の増加に伴う生産量の変動を見込みつつも、平均 CO2 排出量削減への新目標をビール 5 社共に達成することを目指して、CO2 削減・省エネルギーの取組みを今後も強化していく。

以上